

ROYAL-TIMES

—ロイヤルホームの新しい生活—



写真= 4F庭園 二度咲きた胡蝶蘭

虫の音

小森 公美
2021年 10月 11日

晩夏から秋にかけて鳴いている虫と言えば、童謡「虫のこえ」の歌詞にもあるスズムシ、コオロギ、マツムシが代表的だと思います。夕方や夜だけでなく、朝もよく鳴いています。

すぐに聞き取れる「リッリッリッリッ」や「スイーッション」は、他の言葉で表せるかと考えてみましたがスイーッション以外考えられませんでした。マツムシは単体で聞いた記憶が無かったので鳴き声をネットで検索してみましたが、どう聞いても私には「チンチロリン」としか聞こえませんでした。

虫の声を文字で表現したり、そもそも虫の声に耳を傾ける文化は世界中でも大変珍しく、他国では虫が発する音を雑音か、鳴いている事にも気づかないのだそうです。

他国では虫の声を機械音や雑音と同様に音楽脳とも呼ばれる右脳で聞いているのに対して、日本人は言語脳と呼ばれる左脳で聞いているという研究結果がありました。虫の音の他に、波や風、雨の音等も同様に、日本人は自然が発している言葉として認識しているのだそうです。

音楽も自然の音も楽しみながら秋の夜長を満喫していきたいです。



写真= 敬老の日 職員のメニュー (9月21日)

ご入居者様の献立は写真と一部異なります：松茸御飯、刺身森、なすの揚げ浸し、白菜のレモン風味、茶わん蒸し(鶏肉、ぎんなん)



写真=フロアにて大人の塗り絵をされている様子 (2021年9月27日)

秋の過ごし方

石井 太一
2021年 10月 7日

秋を迎えたホームの暮らしを二つの視点でお伝え致します。一つ目は『レクリエーションでフレイル予防』です。現在ホームで実施されているレクリエーション、「地図de脳トレ」は多くのご入居者様から好評を頂いております。ピックアップした地方の地図を読みやすい様に拡大コピーして皆様のお手元に広げ、地名を探して頂いております。

地名探しも非常にユニークな方法です。近畿地方にある難読漢字の地名を出題して皆様を、熱中の地図旅行にお連れしています。司会進行のレクリエーション介護士中易が近畿地方の「阿漕」という地名を提示すると、まずは皆さんで読み方を当てます。「あこぎと読むんですね、あこぎってあこぎな人って言葉あるよね」等、言葉の語源となった地名にもリンクさせてクイズを進行しています。歴史にちなんだ地名も探してもらい日本史にも触れる事で脳の活性化にも繋がっているのではないのでしょうか。「関ヶ原(※東海地方)って石田三成と誰が戦ったんでしたっけ?」「私ここに行った事あるわ」等など、ご入居者様が多様な意見を交わしながらコミュニケーションを図る事が出来ております。上記写真の「おとなの塗り絵」も大変好評です。ただ色を塗るのではなく、手や指先を使い、色や形に沿って塗り絵をする事により一種の脳トレになっています。

この様に皆様と行うレクリエーション等の趣味活動は、社会とのつながりにも関連しています。社会とのつながりを失うと、要介護の入口となる『フレイル(虚弱)』になり兼ねません。ホーム生活において、集いの場の提供をコロナ対策にも考慮しながら持続していく事がホームの課題となっています。

二つ目の視点は『ICT(情報通信技術)でSDGs』です。私共スタッフは「介護・看護・リハビリ」といったそれぞれの専門職の腕を持ち、皆様へのサービスを提供させて頂いております。その中で近年利便性の高さで、注目されているタブレット端末等のICT(情報通信技術)の導入が進められています。ご入居者様がその方らしく可能な限り自立した日常生活を送れる様に、各専門職が場所を問わず、端末を通して多様な意見を出し合い、一体的なサービス提供を日々心掛けております。これは2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)にも通ずるものと感じております。多様な次世代のデバイスを受け入れる事で、ご入居者様とスタッフそして、地域が共に創り上げるサステナブルな社会を目指して行きたいですね。

今月のトピック

・コミュニケーションとリハビリ

・委員会活動報告(教育委員会)

・スタッフ紹介

コミュニケーションとリハビリ

岡 聖史
2021年 10月 9日

ロイヤルホームでは、言語聴覚士によるリハビリテーションをご提供しています。言語聴覚士のリハビリテーションは嚥下（飲み込み）とコミュニケーションに二分することができます。今回はコミュニケーションに関するリハビリテーションを受けていらっしゃるご入居者様の様子をお伝えいたします。

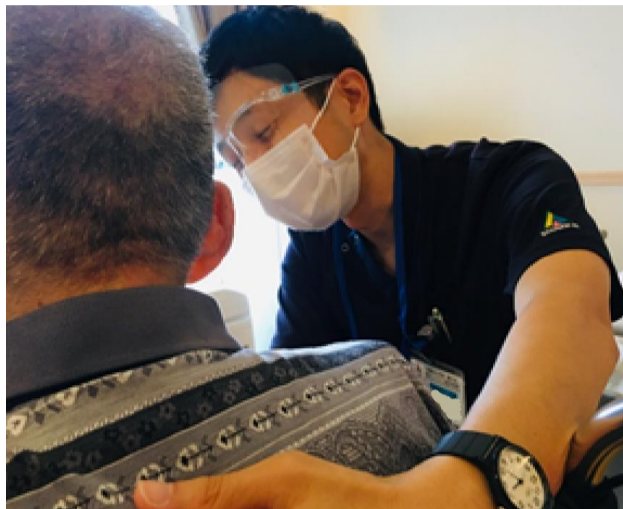
コミュニケーションの問題にも様々な種類があり、最も多いのが発声や発音が上手く出来ず不明瞭となり、意図が伝わらない状態（スピーチの問題）です。

あるご入居者様は、ご自身の発した言葉が一度で相手に伝わらない事や全部を聞き取ってもらえない事に気がされ、もっとはきはきと話したいと訴えがありました。ただし、リハビリも一辺倒ではありません。

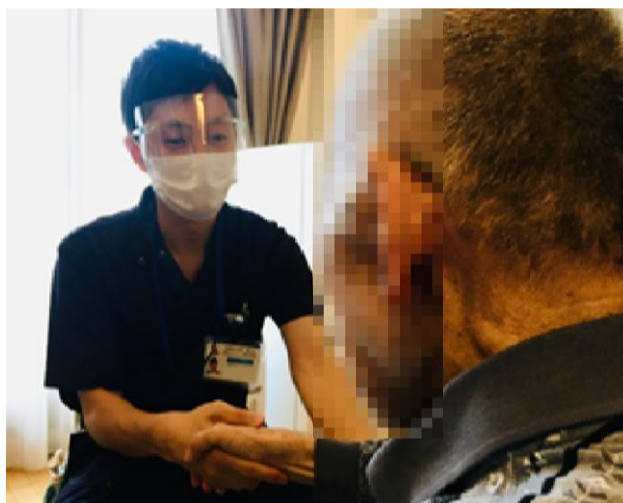
呼吸、発声、発音等、うまく発するメカニズムは複雑です。ご入居者様も呼吸、発声、発音の訓練と様々なトレーニングを行います。中でも発声訓練では毎回声を出すので想像以上にエネルギーを消費します。ご入居者様も「大変だよ、この人（言語聴覚士）も熱心だからね！」と仰り、トレーニングに力が入っている様子でした。「えい、えい、えーい」とご入居者様と言語聴覚士とで発声を行っていくと、次第に声が大きく変化していきました。最後に私が「見学ありがとうございました」とご入居者様にお伝えすると、「もういっちゃんですか、また来てください」と明瞭な声で返答していただけました。

個人差があるとは思いますが、トレーニング直後では声量に変化が見られました。今後もコミュニケーションに関するリハビリを精力的に続けていただけたらと思います。

（補足ですが、発声訓練は嚥下にも好影響を与えるそうです。食事の前に「バタカラ」と発している嚥下体操には舌、唇、声帯等嚥下に必要な器官を動かす準備体操としての意図があるそうです）



写真＝呼吸の訓練を行っている場面（10月5日）



写真＝発声訓練を行っている場面（10月5日）

お知らせ

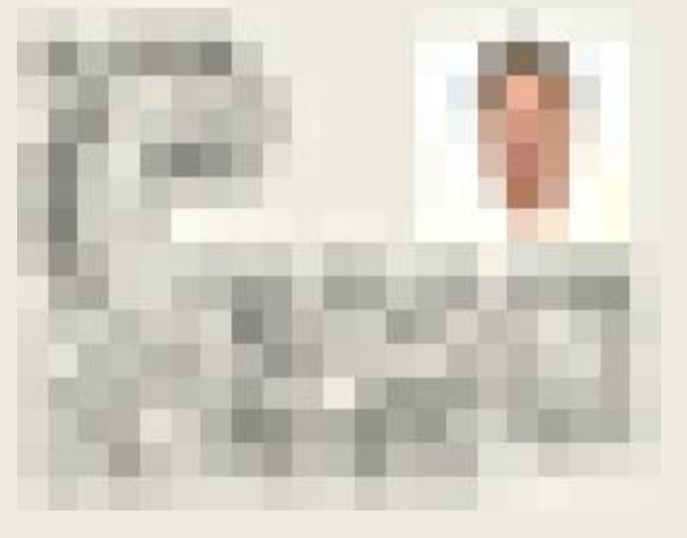
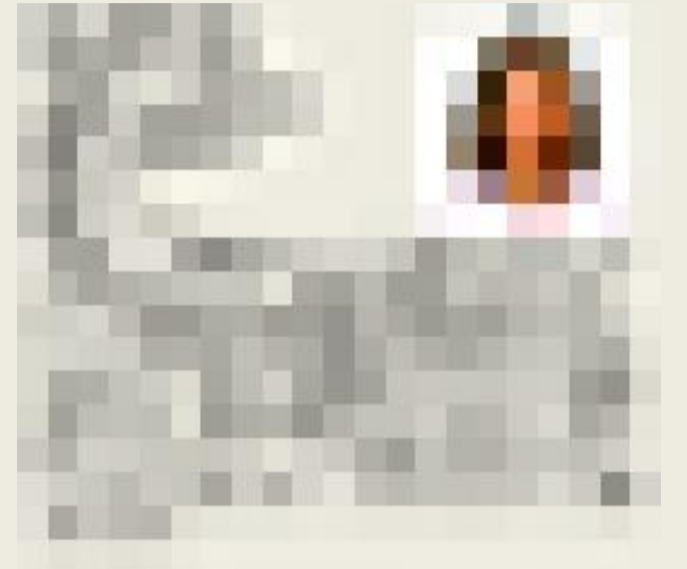
現在ロイヤルホームでは有線放送（以下、USEN）を試験的に導入しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響によりお家時間が長くなっている現状があります。ホームでも館内の生活を少しでも盛り上げていただきたいと思います。TEST導入に至りました。タブレット一つで手軽に導入できる時代ですので、非常に便利です。

写真＝USEN専用タブレットと付属スピーカー



スタッフ紹介

2021年10月1日



振り返り

岡 聖史
2021年 10月 7日

総理大臣が代わりました。前任と印象が異なるのは年齢の違いや言葉遣いの違いだけではないようです。

「私は」が多い1人称のコミュニケーションは、「何を言っているのかよくわからない」、「発信力がない」と言われていました。相手が何を知りたがっているのか、相手が理解できたか、と常に2人称優先のコミュニケーションが求められるのが令和なのでしょう。これは医療・介護においても同様です。「我々がどうしたいか」、「周りがどう考えるか」ではなく、「ご本人が何を望むのか」に耳を傾け、あるいは推測していくことが重要です。

委員会活動報告（教育委員会）

金井 健一
2021年 10月 5日

教育委員会では、新人介護職員の指導計画・管理、介護職員の評価制度の策定や、介護職員の採用活動、全職員に対する研修の計画・実施などを

行っています。新人介護職員については、指導計画に基づき指導をしています。定期的な面談をしながら、ロイヤルホームの大切な職員の一人となってもらえるようにフォローを行っています。

研修の開催に関しては、職員が密にならないよう配慮する目的で、昨年度からYoutube動画等

を使用した研修を行い、知識の蓄積に努めています。一方動画による研修では技術の確認が十分に行えない為、個別の技術チェックも行っています。

また、職員の業務標準化を目指し、業務マニュアルの作成・修正をしています。職員のレベルアップやケアの統一化を図りながら、入居者様に対して、質の良いケアが提供できるよう努めてまいります。